

「クリモト環境報告書2003」の特徴

この度〔平成15年4月〕、当社社長に就任した横内誠三は、事業企画室時代から燃料電池、天然ガス等のクリーンエネルギーや土壌汚染対策技術、リサイクル事業等の研究・開発、並びに環境関連事業の立ち上げに全力を注ぎ、またNGOオイスカによる植林活動への支援、環境に優しいエコロベースポール参加など栗本鐵工所における環境活動の先陣を常に走り続けてきました。

その新社長の環境活動、環境製品の開発・販売を通して地球環境に、社会に貢献して行くとの考えから、今回は、◎水 ◎廃棄物 ◎騒音 ◎エネルギーの4分野における当社の環境調和型機器、技術、サービスの抜粋を掲載いたしました。又、環境製品、サービスを開発提供するために、近年新しく設立しました環境関連グループ会社〔エージェアールジャパン(株)、ピー・エス・ティ(株)、プランツエコサイクル(株)〕などの情報も一部掲載しております。



クリモトの環境のイメージキャラクターであるカッパは、水がきれいなところにしかいないとされる伝説の動物です。社内公募で「ささら」と名前をもらい、この報告書の重要なポイントを説明してくれます。



バックナンバーや環境製品納入実績等、ホームページでご覧いただけます。

<http://www.kurimoto.co.jp/kankyo/kankyo.htm>

CONTENTS

ごあいさつ	1
クリモトについて	3
環境マネジメント	Environmental Management
[栗本環境自主行動計画]	
環境との調和を積極的に推進しています。	4
[マネジメントシステム]	
より具体的な目標を設定して環境負荷低減を目指しています。	5
環境配慮型製品	Environment-conscious Product
[社会との共生]	
地球環境との共生を目指して環境調和型機器を開発しています。	7
水	
創業以来クリモトは水にこだわった製品作りを進めて来ました。	8
廃棄物	
新技術の開発・導入で廃棄物の低減に努めています。	9
騒音	
騒音や振動から暮らしを守り静かで美しい街づくりに貢献します。	10
エネルギー	
クリモトの環境調和型機器はこんな分野でも役立っています。	11
環境マネジメント	Environmental Management
[環境コスト／環境データ]	
環境を保全するためのコストを環境会計として発表しています。	13
環境パフォーマンス	Environmental performance
[環境アクティビティ]	
温暖化対策とゼロエミッション。クリモトが設定する2つの課題。	14
環境コミュニケーション	Environmental communication
[教育関連]	
社員すべてが環境問題に対して対応できる環境を整えています。	15
[地域社会との交流]	
様々な環境イベントを通じて社会貢献活動を実施しています。	16
[安全衛生・第三者意見]	
「ラプス運動」で誰もが安心して働ける職場づくりを目指します。	17
サイトレポート	Site Report
[主要事業所・工場、関連会社]	
循環型社会の実現のために。これが、私たちクリモトです。	18

編集方針と対象範囲

本報告書は(株)栗本鐵工所の継続的な環境活動、取り組みをより多くの方々にご理解いただけるよう2000年版から発行し今回で4回目の発行となります。

- 掲載内容については、数値データが2002年4月1日～2003年3月31日ですが、活動内容に一部それ以降も含まれます。
- 数値データ等の集計範囲は栗本鐵工所の主要工場(8工場)ですが、環境製品、トピックス、活動内容等に一部グループ会社を含みます。
- 主要変更点 2001年10月古河工場開設、2002年3月千島工場閉鎖、2002年4月化成品事業部が独立分社化しました。
- 作成に際しては環境省「環境報告書ガイドライン」、GRI*の「サステナビリティ・リポーティングガイドライン2002」を一部参照しました。
- 対象読者は、当社のお客さま、従業員、株主、学生、環境に興味のある全市民の方々です。
- 次回発行は2004年9月頃を予定しています。

●発行責任部署 (株)栗本鐵工所 総合調整室 環境安全衛生部 TEL.06-6538-9479(直通) FAX.06-6538-7750

*GRI(Global Reporting Initiative)は全世界で適用可能な持続可能性報告のガイドラインを策定し、普及させることを目的に1997年に設立された国際組織。「経済的」「環境的」「社会的」の3要素を重視する点が特徴。